

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：34437

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02452

研究課題名(和文)イノベティブ教育の実践に向けた教職志望学生の学習に関する縦断的研究

研究課題名(英文)A longitudinal study of student teachers' learning for innovative practices

研究代表者

羽野 ゆつ子 (HANO, YUTSUKO)

大阪成蹊大学・教育学部・教授

研究者番号：50368437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：イノベティブ教育(Innovative Practice、教科横断的な学びや批判的思考、創造的問題解決を進める教育、我が国の探究型授業、以下、IP)の実践準備を可能にする教員養成の方法を検討した。研究方法として、IPの研究者的実践者(現職熟達教師)と、教師教育を行う実践者的研究者との協働実践研究アプローチを採り、IPの学習プログラムを連携・協働して開発・実践した。プログラム参加の教職志望学生(以下、学生)の学習について、熟達教師への威光模倣という関係論的学習が学生の省察と教職準備性に及ぼす影響を検証した。威光を感じる実践との出会いが学生の省察を促し、模倣への態度を生むことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1に、「威光模倣」という関係論的学習に焦点を当て、その学習過程を協働実践研究によって検証し、威光を感じる実践との出会いが、学生の省察を促し実践化への態度を醸成することを示した。威光模倣による学習は、教育政策の変化に適応してゆく適応的熟達者ではなく、主体的に教育実践を生み出す創造的熟達者としての教師の育成への示唆ともなる。第2に実践の開発と実践は熟達教師に協力を得て、研究者はコーディネーターと検証に取り組む協働実践研究を試みた。それにより、研究者が熟達教師のプログラムに参加して自覚的に学習者のポジションをとりつつ、学生と共に次の実践の継起を構想するスパイラルな実践研究となった。

研究成果の概要(英文)：We investigated methods of teacher education that enable preparation for Innovative Practice (IP), a pedagogy that promotes cross-curricular learning, critical thinking, and creative problem solving, which is an international educational challenge to be extended to primary and secondary education. First, as a research method, we adopted a "collaborative practice research" approach among practitioners who are researchers of IP and researchers who are practitioners of teacher education, and developed and implemented an IP learning program in collaboration and cooperation with pre-service teachers. Second, we propose a relational learning theory of prestige imitation for proficient teachers to investigate the effects of learning through prestige imitation on students' reflection and readiness for teaching. This study showed that exposure to prestige practices promotes students' reflection and creates an inclination towards imitation.

研究分野：教科教育学および初等中等教育学関連

キーワード：イノベティブ教育 探究型授業 教員養成 威光模倣 教職準備性 省察 協働実践研究

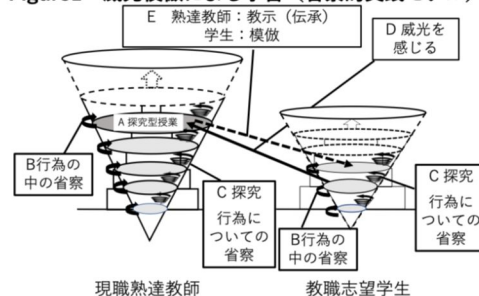
1. 研究開始当初の背景

2018年にOECDが実施したTALIS (Teaching and Learning International Survey; 国際教員指導環境調査)の第一次報告では、IPの普及が世界的な課題となる中、日本ではIPが普及していないことが明らかとなった。その背景として、日本の教師は、養成段階でIPを学んでおらず、教職準備性(教職に就くまでに実践準備ができたかどうか)が整っていないことが示された。IP(探究的な学習)に限らず、教職準備性は世界的な課題でもある。教師の専門職像として「省察的实践家」が提唱されて以来、理論と実践の架橋を目指して、養成機関(大学)と学校との「連携・協働」による、長期の実習と省察を中心とする教師教育が進められてきた。だが、近年、教師教育研究では、現場実習中心の養成教育という政策に対して批判的検討がなされ、今日の教師教育と、その研究を牽引するコルトハーヘンは、この教師教育改革が政策(カリキュラム)レベルで進行したと考察し、実践主体である教師や学生の学習から教師教育を捉え直すことを提唱する。一方、教師教育の具体的な実践やその成果については、一連の改革の根本的原理である、養成機関(大学)と学校の「連携・協働」の内実や、その中での学生や教師の学習は、十分に吟味されているとはいえない。IPの普及が学校教育と教師教育の課題となり、教師の学習への注目が高まる中、IPの実践に向けた学習を可能にする具体的かつ教員養成に適用可能な方法を、大学と学校現場の「連携・協働」によっていかに創出できるかが課題であった。

2. 研究の目的

本研究は、IPの実践準備を可能にする、具体的かつ教員養成に適用可能な方法として、威光模倣による学習を検討することを目的とした。威光模倣による学習をFigure 1に示す。まず、教師は、実践(A)の中の省察(B)での気づきをもとに、探究(C)し熟達化してゆくと考える。その熟達現職教師の実践(A)に威光を感じた学生(D)は、教師の実践知を模倣による探究を通して学んでいく(E)。その学生の探究過程(C)で現職教師は自らの知を伝承してゆく(E)。具体的には、IPの実践準備に向けた教員養成プログラムを現職熟達教師と協働で開発・実践し、プログラムが教職志望学生(以下、学生)の現職熟達教師への威光模倣による学習と、学生の教職準備性に及ぼす影響を検証した。

Figure1 威光模倣による学習(省察的实践モデル)



3. 研究の方法

(1) 教職志望学生の学習状況調査

教職志望学生の学習状況を確認するため、小または中高教職課程履修中の学部生 65 名、教員

免許取得済みの大学院生7名を対象に、教職課程の学習内容と教職準備性、批判的思考態度を質問紙調査から測定した。

(2) 実践研究

(1)をふまえて、3年間の研究期間を3つ(体験プログラムの開発と実施、授業構想・実践プログラムの開発と実施、学習材構想と学校視察)に分けて、以下のプログラムを熟達教師と協働で開発し実践した。1年目と2年目はCOVID 19の影響により、オンラインと対面のハイブリッドでの実施に計画を変更して遂行した。

体験プログラムの開発と実施(1年目):熟達教師のIP授業を教職志望学生が学習者としてオンラインで体験するプログラム全3回を開発・実施した。体験前後の学習効果は、教職準備性と批判的思考態度の質問紙調査から検討した。

授業構想・実践プログラムの開発と実施(2年目):1年目のプログラムで熟達教師から学ぶことを希望した学生(威光模倣学習者とする)を対象に、オンラインで熟達教師からIPの授業づくりを学び、学生が授業を構想し、最後に熟達教師の現任校(高校)でIP観察と構想した授業の実践、省察を行った。その後、インタビューを通してプログラムの効果検証を行った。

学習材構想と学校視察(3年目):をふまえて、IPのコアとなる「学習材」の構想に焦点を絞り、前半は、伊那小学校の総合学習と北九州子どもの村小・中学校のプロジェクトを実践事例として、その背景にある「学習材の構想」について、現職教師から学び、その後、チームに分かれて「材」構想を行い、発表会で現職教師から指導を受けるプログラムを行なった。後半は、IPの実践校(南アルプス子どもの村小・中学校、軽井沢風越学園)の現地視察を行った。全プログラム終了後、威光模倣に関するインタビューと質問紙調査(批判的思考と教職準備性について)を行い、プログラムの効果を検証した。

4. 研究成果

(1) 教職志望学生の学習状況(2021年度)

教職志望学生の学習状況調査をTALIS2018の結果と比較したところ、学部生は、TALIS2018の調査対象となった現職教師に比べて養成段階でIPを学習していたが、IPの教職準備性は課題であることが確認された。

(2) 実践研究

体験プログラムの開発と実施(2021年度)

熟達教師のIP授業の体験するプログラムをオンラインで3回実施した。プログラム参加の効果を検証した。その結果、プログラム全3回参加の学生は、同学年の1回参加の学生に比べ、威光模倣による学習態度が見られたが、教職準備性と批判的思考態度の「熟慮」の自己評価が低下した。オンライン実施でも威光模倣が生まれる可能性が示唆されたが、熟達教師の実践に威光を

感じた学生は、加算モデルとは異なる成長モデルを示した。

授業構想・実践プログラムの開発と実施（2022年度）

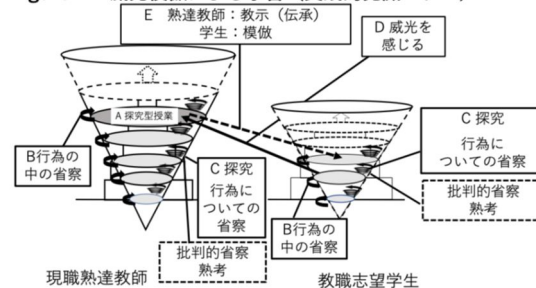
で威光模倣を示した学部生のうち継続希望者8名に、教職志望の学部生1名、大学院生5名を加えた計14名が、と同じ熟達教師から、「SEL（Social Emotional Learning）を基盤としたIPの授業づくり」を学ぶプログラムを実施した。14名は4チームに分かれ、前半にチームビルディングをとおして心理的に安全な環境を作り、後半に探究型授業を構想し（ここまでオンライン）、最後に高校生を対象に対面で授業を実践した。授業を受けた高校生は、4チームの授業すべてを「学習者が自由に探究する授業」と評価した（5段階評定で4.17から4.83）。プログラム終了後のインタビューの結果、学生は、オンライン上で心理的に安全な関係を構築して、探究型授業を構想する協働活動に取り組んだ。探究型授業の構想と実践への参加をとおして、探究型授業の実践への態度を高めたが、実践準備性に課題が残った。実践に向けた学習課題として、多様な事例をみること（事例）と自らテーマ探究すること（テーマ探究）が挙げられた。

学習材構想と学校視察（2023年度）

の学習課題をふまえてテーマ探究として「材」の構想、多様な事例として伊那小学校、子どもの村学園、風越学園を取り上げた。から継続参加で小学校教諭志望の学生3名を含む学部生6名、現職院生2名、大学院生5名が参加した。全プログラム終了後の半構造化インタビューでは、威光の感情としてawe（畏敬と畏怖）に注目した。aweは既存の認識枠組みの更新を促すこと、畏敬は共感を生み、内集団への向社会的行動をもたらすことが指摘されてきた。インタビューの結果、熟達者の探究授業に触れることが畏敬の念を喚起し、学生のスキーマ変容と模倣への態度（実践への共感）を生むこと、実践化については経験者（非常勤含）には影響をもたらすが、学部生には限定的であることが示唆された。3年間継続参加の学部生3名（全員小学校教員への採用決定）には批判的思考態度と教職準備性の調査も行なったが、2021年度の調査から変化は見られなかった。だが、前述のとおりインタビューからは質的な変容が示された。

現職教師との「連携・協働」による教員養成の実践研究を行なった。実践研究には、理論と実践が相互に作用し発展することが期待される。本実践研究では、実践面では威光を感じる実践に出会うことで省察が促されること、教職準備にはIP授業の体験や、授業づくりと実践、「材」の構想、学校視察に加えて、教育観が重要になることが示された。それをふまえて、理論面では、威光模倣による省察的実践の学習モデル(Figure 1)に実践の前提を問う「批判的省察」と、授業の目的

Figure 2 威光模倣による学習（実践の見識モデル）



やカリキュラム、教材のもつ学問的広がりを吟味する「熟考」を加えた実践的知恵の学習モデル (Figure 2) を提案した。教育観の学習に関する理論と実践の研究、さらには個人の相違をふまえて実践を共創する知恵をいかに育むかが次の課題となった。

【謝辞】

本研究にあたり、佐野和之先生（かえつ有明中・高等学校副校長）、金井達亮先生（かえつ有明中・高等学校司書教諭）、田中孝弘先生（伊那市立伊那小学校教諭）、前田知洋先生（北九州きのくに子どもの村小・中学校）、加藤博先生（南アルプス子どもの村小・中学校）、岩瀬直樹先生はじめ風越学園のみなさまにご協力いただきました。また、教職志望の多くの学生の方々に本プログラムおよび調査にご参加いただきました。心よりお礼申し上げます。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 羽野ゆつ子	4. 巻 1
2. 論文標題 教師の「実践的知恵」の形成と継承－探究型授業に注目して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 同志社教師教育研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/0002000406	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 羽野ゆつ子， 山崎宣次， 井藤元	4. 巻 10
2. 論文標題 探究型の授業実践に向けた教職準備性－探究の授業づくりにおける教師の協働性に注目して－	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鹿毛 雅治， 河村 茂雄， 木村 優， 羽野 ゆつ子， 深沢 和彦， 姫野 完治， 秋田 喜代美	4. 巻 62
2. 論文標題 教師の専門的能力 その心理学的考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育心理学年報	6. 最初と最後の頁 238-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5926/arepj.62.238	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 羽野ゆつ子・山崎宣次・井藤元	4. 巻 9
2. 論文標題 SEL を基盤とした探究型授業実践力養成プログラムの実践と評価 授業に創発をもたらす教師の育成に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 羽野ゆつ子・山崎宣次・井藤元	4. 巻 8
2. 論文標題 イノベティブ教育（探究型授業）の実践に向けた教員養成の現状と課題 教職志望学生の教職課程における学習に関する調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 187 - 199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 羽野ゆつ子	4. 巻 8
2. 論文標題 熟達教師へのインタビュー調査による教育実践の生成過程の考察 内省による意識変容に注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 175-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎宣次・羽野ゆつ子・井藤元	4. 巻 17
2. 論文標題 教員養成におけるイノベティブ教育の試行 ~オンライン授業での探究型授業の実践~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山梨県立大学人間福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 123-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 羽野ゆつ子
2. 発表標題 探究型の授業実践に向けた教職準備性(3) 探究の授業づくりにおける教師の協働性に注目して
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 羽野ゆつ子
2. 発表標題 心理的安全性が学生の学習と教職履修に及ぼす影響 ワークショップ型授業の試みから
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 羽野ゆつ子
2. 発表標題 省察と模倣による教師の学習
3. 学会等名 日本教育心理学会 第64回総会 学会企画シンポジウム4 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 羽野ゆつ子
2. 発表標題 探究型の授業実践に向けた教職準備性(2) 熟達教師から実践を体験的に学ぶことの効果
3. 学会等名 日本教師教育学会 第32回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎宣次
2. 発表標題 教員養成におけるオンラインを使ったイノベティブ教育の試行 - 総合的な探究の時間に向けて -
3. 学会等名 日本教育情報学会 第38回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 羽野ゆつ子・佐野和之・金井達亮・山崎宣次・井藤元
2. 発表標題 イノベティブ教育の実践準備性を高める教員養成の試み：大学と現職熟達教師の「連携・協働」による開発と実践
3. 学会等名 国際教育学会 第15回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 羽野ゆつ子
2. 発表標題 探究型の授業実践に向けた教職準備性
3. 学会等名 日本教師教育学会 第31回研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山崎準二， 紅林伸幸， 金子真理子， 栗原峻， 長谷川哲也， 川村光， 羽野ゆつ子， 大島真夫， 中村瑛仁， 酒井郷平， 望月耕太， 高谷哲也， 三品陽平， 油布佐和子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 人言洞	5. 総ページ数 216
3. 書名 専門職として成長し続ける教師になるために 教職詳説	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井藤 元 (Ito Gen) (20616263)	東京理科大学・教育支援機構・教授 (32660)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山崎 宣次 (Yamazaki Senji) (50622635)	鈴鹿大学・こども教育学部・教授 (34105)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関